

## (2) - 2) ③観光利用を企図した保全とネットワークづくり (京都府宮津市エコツーリズム協議会)

ナデシコを里山再生のシンボルテーマにして里地里山の保全整備を進めると共に、地域PRやエコツアーに活用する。

### a. 取組の背景と経緯

京都府宮津市世屋高原の棚田では、かつては夏になると畦一面にナデシコの花が咲くのがみられた。しかし、近年は過疎化に伴う休耕田の増加や人の手入れが十分に行き届かないため里山が荒廃し、雑草等に飲み込まれるなどしてその数を減らしており、道端にわずかにみられるのみとなっている。

この地域で自然観察会を開いている宮津市エコツーリズム推進協議会では、2011年サッカーワールドカップ女子の活躍に着想を得て、「足元の名付け親を救おう」との思いからナデシコの保全活動に取組始めた。

### b. 活用の方法

#### ■地域PRや里山再生のシンボル活用

保護増殖活動をホームページで紹介し地域や里山再生のシンボルとして発信。希望者には採れた種子を送付している。

#### ■ツーリズムへの活用

駅待合室での種子の配布やホームページ等での発信活動を通じてPRしツーリズムへの活用を図っている

### c. 保全活動や野生生物への効果

群生地周りの草刈りが進み、周辺の農家の理解と協力が進みつつある。また種子の採取による保護増殖も確実に進められており、配布活動を通じた全国の保護団体との連携による保全活動の拡大が期待されている。